

古川に水涸れず

ー 城ヶ島における漁業活性化計画 ー

Keywords

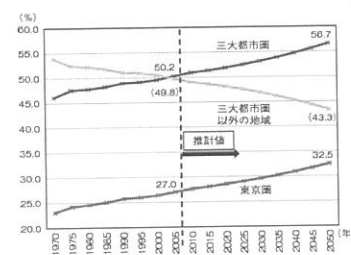
過疎化 地域資源 産業
漁村 つながり 育成

1. はじめに

三大都市圏への人口集中が多くなるにつれて、対照的に地方では過疎化が進み深刻な問題となっている。

下の表1は三大都市圏と東京圏の人口が総人口に占める割合の統計と今後の推計を表したものである。2005年を境に三大都市圏の人口が総人口の半分以上を占めているのが分かる。地方の多くの自治体では、高度経済成長期における人口増加のまちづくりから人口減少・高齢化を踏まえた新たなまちづくりへと大きな転換を求められている。財政の悪化をはじめとするさまざまな課題を抱える中、「地方創生」を進めていかなければならない。

表1



また、地方には地元ごと特有の“色”があるがこのままではその地方の良さが廃れていってしまう。このまま地方を捨てて日本は本当に良いのだろうか。

2. 研究背景

2.1 地方の現状

地方では地元離れが加速していき、“色”が失われ、働き手が不足し働く場所が減り、地域の存続自体が難しくなっている。その現状を打開するには人を呼べるような魅力ある事や物（地域資源）が必要となってくる。

しかし、地方には都市にはない魅力が必ずある。それはどこを取っても例外は無いと言えるだろう。だが、その魅力は一部の少数の人しか知らないというのがほとんどである。それらをどのように発信していくかが課題だろう。

2.2 漁業

今回注目した地域資源は第一産業である漁業である。第一次産業は都市部に対してさまざまな多面的機能を持っている。しかし、就業人口の大幅な減少や高齢化の進展、漁村の過疎化や水産資源の減少などにより確実に脆弱化している。このまま続くと本来の役割である食糧等の安定供給はもとより、多面的機能の発揮も危うくなってくる。

2.3 漁村の課題

- ①若年層の都市部流出により後継者がいない。
- ②個人漁業者を育成し、就業希望者を着業、定住するに至っていない。
- ③単独の個人漁業を営むだけでは生計確保が難しいため、漁業の複合化などによる経営の安定化やブランドの供給拡大が求められている。

3. 研究目的

この計画は、地方にある日本の基盤とも言える第一次産業を軸にして、その地域に合った地方創生を試み、町の活性化を計るものである。

また、実際にその産業を体験して興味を持ってもらう事でこの町の良さを知ってもらう。そして、その町並みや自然を見て都心の環境から解放される時間を作り出す。

4. 対象敷地

4.1 周辺敷地

敷地は神奈川県三浦市三崎町城ヶ島。[写真1] 三浦市は神奈川県最南端に位置しており三方を海に囲まれている。江戸時代より大消費地が近いという立地から三崎漁港を主とした漁業を中心に発展してきた。現在では漁業だと「三崎マグロ」、農業だと「三浦大根」がブランド化されている。

しかし、この町も高齢化や跡継ぎ問題に悩まされおり年々漁師の数は減少の一途を辿っている。三崎漁港は国の指定している重要港のうちのひとつだが、いまやかつての活気は失われてしまっている。



写真1 城ヶ島

Kazuho IMAI

4.2 対象敷地

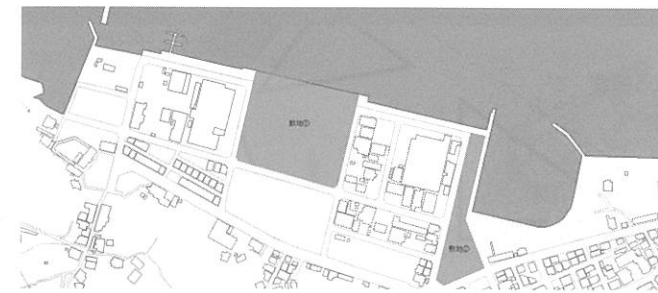


図1 敷地

城ヶ島は周囲長約4 km、面積0.99 km²で、神奈川県最大の自然島である。東西幅約1.8 km、南北幅約0.6kmの東西に細長い菱形の地形で標高30m程の平坦な台地が大部分を占め、沿岸部で急激に海に落ち込んでいる。以前は対岸にある三崎漁港の機能の一角を担っていたが現在では沿岸漁業中心に変わっている。

今回は二つの敷地を対象にした。

敷地①

対岸の三崎漁港側とは500mほどしか離れておらず、北側に面している海は非常に穏やかである。南側は駐車場となっていて、主要道路から海まで視界を妨げるものは何もない。

面積:12000m²

敷地②

東側は湾の一角となっており海が目の前にある。南側には住宅街が広がっていて、島民の生活を感じられる立地となっている。

面積:3800m²

5. 設計概要

5.1 設計趣旨

漁師の生活リズムが流れているこの島の時間軸を尊重し、ありのままの生活が垣間見える計画が相応しいと考えた。漁業の魅力を伝えるための体験施設に宿泊施設や商店街を取り込み、観光客だけではなく島民も集まれるようにし、様々な年代・目的の人が滞在できる空間を計画する。また、市場にレジャー施設やギャラリーを複合することで観光客には近寄りがたい市場にも自然と人の流れを誘導することができ、漁業とはどういうものなのかを知ってもらえる機会を創出する。



写真2・3 城ヶ島の風景

5.2 プログラム

- ・漁師学校
- ・漁業体験施設
- ・宿泊施設
- ・飲食店
- ・レジャー施設
- ・産直・物産センター
- ・ギャラリー

漁師学校では漁師になるための船舶免許や特殊無線など必要な免許の取得というカリキュラム運営を考え、それを形態に活かす。

6. 設計手法

敷地①

海を入り江として敷地内に取り込みそれを中心に据える。それによってどこにいても海を望めるようになり、入り江に入るための動線（海上交通道路）によって敷地が分割される。それぞれにプログラムを配置し、2階の回廊で繋がりを持たせる。また船の泊地を建物の中に配置し船を見せる物としても扱う。建物を低く抑えることで水辺と空を見上げることの出来る公園を提案する。

敷地②

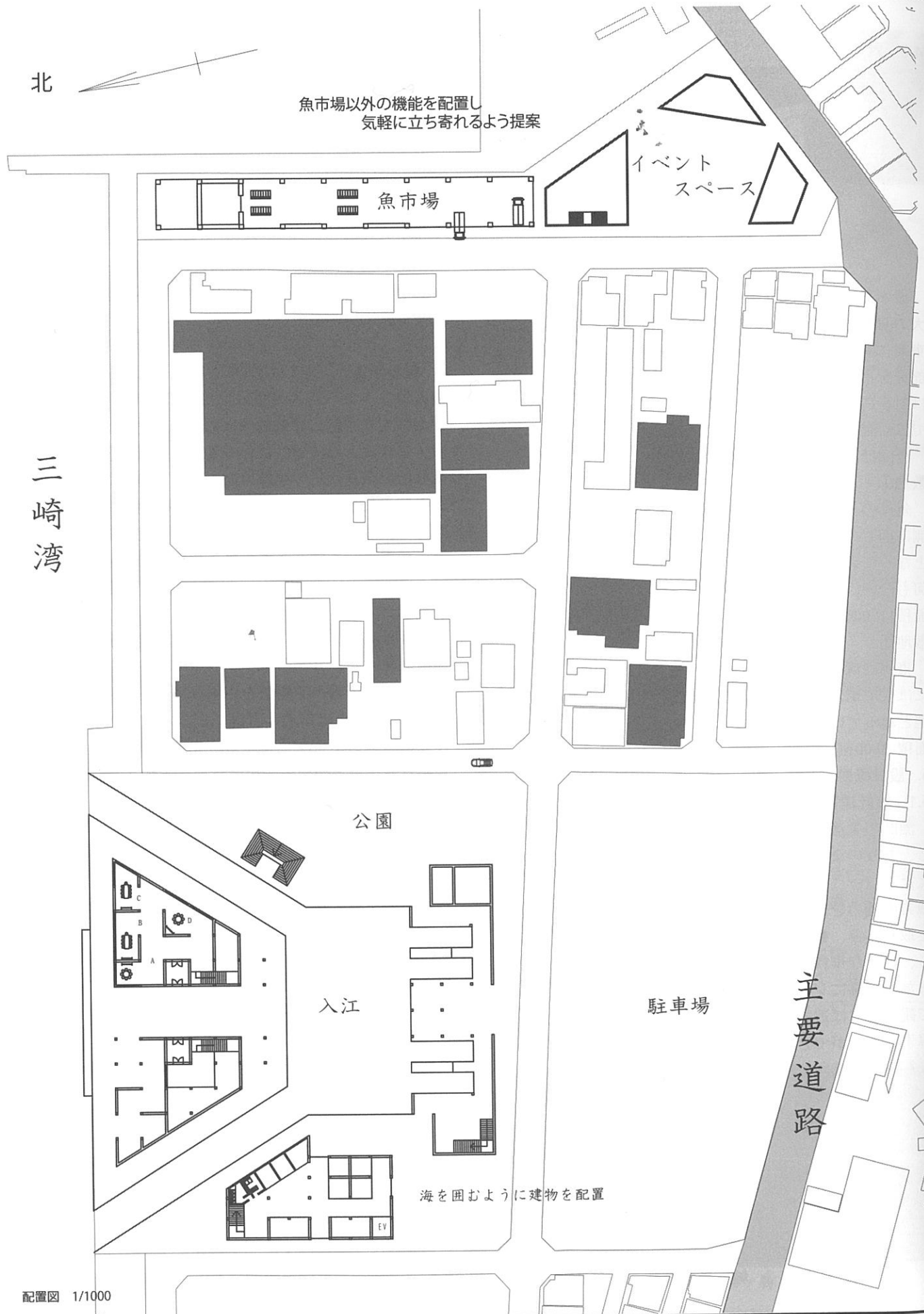
細長く海に接している面に市場の機能を配置し、その前後にイベントスペースやレジャー施設を配置する。それにより、市場の雰囲気を市場以外でも感じられるようになり2階からは市場の雰囲気が見渡せるギャラリーを作り市場の透明化を提案する。先端には灯台型の展望台があり対岸の三崎漁港や相模湾を見渡せる場を設けた。

7. おわりに

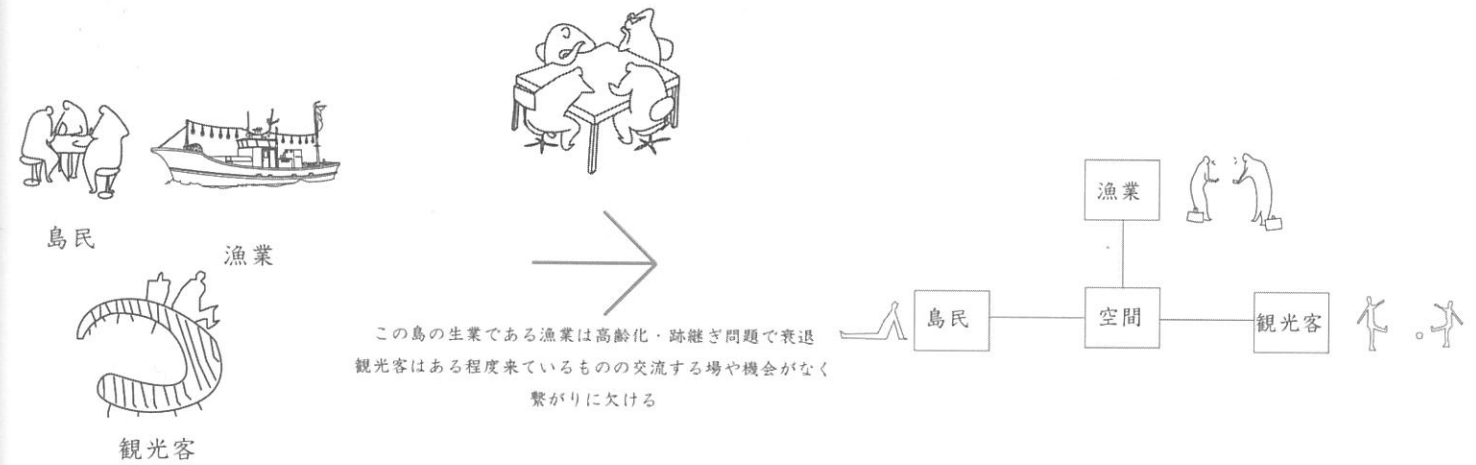
現在、第一次産業は衰退の一途を辿っており、それが劇的に改善されるような兆しも見えていない。そのためにはその産業を知ってもらう機会を作り人々の関心を集めるべきであると考えた。

8. 参考文献

- 1) 城ヶ島漁協直売所
<http://sea.ap.teacup.com/jougashima/4.html>
- 2) 三浦市ホームページ<http://www.city.miura.kanagawa.jp/>
- 3) 三大都市圏への人口集中と過疎化の進展
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc112130.html>
- 4) 三浦市観光案内ホームページ
<http://www.miura-info.ne.jp/area/jougashima/>

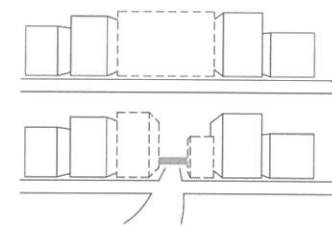


提案



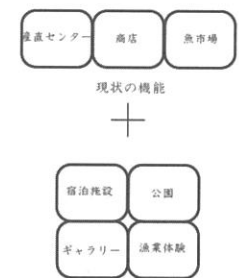
ダイアグラム

断面イメージ



主要道路から対象敷地まで視界を遮る障害物は無い。
抜けを作り海を見せる。

平面イメージ



新たな機能を配置し孤立していた従来の機能と繋がりを設ける

外観パース

